

(別紙3)

建企起第4659号-1

令和6年11月11日

米子駅南駐車場指定管理者

株式会社大幸電設

代表取締役 廣 江 浩 二 様

米子市長 伊 木 隆 司

令和5年度「米子駅南駐車場」指定管理者業務評価書

施設名	米子駅南駐車場
施設所管課	都市整備部 建設企画課
指定管理者名	株式会社大幸電設
指定期間	令和5年7月30日 ~ 令和9年3月31日(1年目)

【モニタリング終了後の総評】・事業計画書、収支予算書と実際の業務内容を比較して記入する。

・毎月の「運営状況チェック表(自己評価)」、半年ごとの「モニタリング評価表」で確認した内容等を記入する。

【施設所管課】

- ・事業計画及び収支予算に沿って、適正に管理された。
- ・米子駅南駐車場供用開始後、特に問題もなく他の駐車場・駐輪場との共同管理をされた。

【第三者評価】

—

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】

—

【第三者評価】

—

(別紙3)

建企起第4659号-1

令和6年11月11日

米子駅南駐輪場指定管理者

株式会社大幸電設

代表取締役 廣 江 浩 二 様

米子市長 伊 木 隆 司

令和5年度「米子駅南駐輪場」指定管理者業務評価書

施設名	米子駅南駐輪場
施設所管課	都市整備部 建設企画課
指定管理者名	株式会社大幸電設
指定期間	令和5年7月29日 ~ 令和9年3月31日(1年目)

【モニタリング終了後の総評】・事業計画書、収支予算書と実際の業務内容を比較して記入する。

・毎月の「運営状況チェック表(自己評価)」、半年ごとの「モニタリング評価表」で確認した内容等を記入する。

【施設所管課】

- ・事業計画及び収支予算に沿って、適正に管理された。
- ・米子駅南駐輪場供用開始後、特に問題もなく他の駐車場・駐輪場との共同管理をされた。

【第三者評価】

—

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】

- ・駐輪場のニーズが限られる中で難しい面もあるが、市と協力のうえ、施設のPR等の利用促進業務に努めていただきたい。

【第三者評価】

—

(別紙2)

令和5年度下期「米子駅南駐車場」モニタリング評価表〔令和6年11月〕

施設名	米子駅南駐車場		
施設所管課	都市整備部 建設企画課		
指定管理者名	団体名	株式会社 大幸電設	
	所在地	島根県松江市西津田九丁目３番１８号	
指定期間	令和５年７月３０日 ～ 令和９年３月３１日		
選定方法	公 募 ・ 非公募		
施設の設置目的	米子駅南側からのパーク＆ライドによる駅利用者の駐車・駐輪スペースを確保し、米子駅前地下駐車場・駐輪場と相互利用することができる一体的な運用とすることで、米子駅南北自由通路を活かした駅利用者の利便性向上を図り、駅南北の相互の活性化に寄与することを目的とする。		
主な実施事業	米子駅南駐車場の管理・運営		

評価項目	評価基準	評価	特記事項
I 履行の確認 (60点)			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1) 管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	立入調査、資料等確認 適切な人員配置がなされている。 管理マニュアル、危機管理マニュアル等及び緊急連絡網が整備されている。
(2) 職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	聞き取り調査、資料等確認 採用時に研修を実施。その後も随時研修を実施。
(3) 利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	B	聞き取り調査、資料等確認 供用開始に伴い、米子駅周辺の店舗等を訪問し、回数券等の販促活動を実施。
2 利用者に関する業務			

(1) 利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※ 1	B	資料等確認 今後、利用者増に向けての販促活動等が必要となる。
(2) 利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	資料等確認 7月～9月、11月～3月に利用者を対象にアンケートを実施。
3 保守点検及び清掃等の業務			
(1) 保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料等確認 機械設備の保守点検等を指定管理者にて実施。
(2) 清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	A	立入調査、資料等確認 毎日の清掃を実施。 随時維持管理業務を実施。積雪の際は、早朝から除雪機等による除雪を実施。

(3) 保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料等確認 適切に処理されている。 機械警備は委託にて実施。
(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料等確認 随時設備の修繕を実施。
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか		
5 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	聞き取り調査、資料等確認 管理マニュアル等に基づき、個人情報の持ち出し禁止や施錠の徹底等、適切に措置されている。
6 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	B	聞き取り調査、資料等確認 施設の現状を的確に認識

				し、市に提案している。
Ⅱ サービスの質の評価 （２５点）				
1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B		立入調査、資料等確認 事業計画書に記載された とおり、アンケート実施 回数を増やし、７月～９ 月、１１月～３月に利用者 を対象にアンケートを実 施。結果は概ね妥当であ る。
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	B		立入調査、資料等確認 毎日の清掃及び備品の交 換等により施設が良好な 状態に保たれている。
3 運營業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	A		立入調査、資料等確認 サービス水準向上のため に除雪機のリースを検討 する等、創意工夫が見ら れる。
4 自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか			
5 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B		資料等確認 設置目的の達成に資する 管理運営内容であった。
Ⅲ サービスの安定性の評価 （１５点）				
1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※２	B		資料等確認 妥当である。
2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※３	B		資料等確認 妥当である。
3 団体等の経営 状況（年度ごと）	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※４	B		資料等確認 回復傾向にある。

【総評（所管課評価）】 ・ 事業計画及び収支予算に沿って、適正に管理された。 ・ 米子駅南駐車場供用開始後、特に問題もなく他の駐車場・駐輪場との共同管理をされた。	合計点 (58) 点 / (90) 点 ×100＝ (64) 平均点 (3.2) 点
---	---

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優 良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良 好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は、評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

※合計点は小数点第1位を四捨五入、平均点は小数点第2位を四捨五入とする。

【補足資料】

1 利用状況

項 目	本年度〔令和5年4～令和6年3月〕 A	前年度〔令和4年4～令和5年3月〕 B	対 比 A－B	対 比 A/B（％）	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
開館日数（日）	246				
施設利用者数（台）	10,412				
施設稼働率（％）	145.9				
事業開催数					

2 事業収支

（1）収 入

項 目	本年度〔令和5年4～令和6年3月〕 A	前年度〔令和4年4～令和5年3月〕 B	対 比 A－B（円）	対 比 A/B（％）	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
指定管理料	885,000				
合 計（円）	885,000				

（2）支 出

項 目	本年度〔令和5年4～令和6年3月〕 A	前年度〔令和4年4～令和5年3月〕 B	対 比 A－B（円）	対 比 A/B（％）	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
人件費	224,574				
委託費	298,080				
運営費	339,312				
合 計（円）	861,966				

3 経営状況分析指標

項 目	本年度〔令和5年4～令和6年3月〕 A	前年度〔令和4年4～令和5年3月〕 B	対 比 A－B	対 比 A/B（％）	備考
①事業収支（円）	23,034				
②利用料金比率					
③人件費比率（％）	26.1				
④外部委託費比率（％）	34.6				
⑤利用者当たり管理コスト（円）	82.8				
⑥利用者当たり自治体負担コスト（円）	85.0				

①事業収支：（収入－支出）

事業全体が黒字で施設の管理運営ができているかどうか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：（利用料金収入/収入×１００）

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：（人件費/支出×１００）

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：（外部委託費合計/支出×１００）

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：（支出/延べ利用者数）

利用者１人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：（指定管理料/延べ利用者数）

利用者１人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

4 団体等の経営状況（年度ごと下期に実施し、上期では行いません。）

項 目	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	備 考
①自己資本比率	12.7%	3.2%	-5.9%	-0.4%	13.2%	
②流動比率	119.3%	191.9%	165.6%	161.4%	173.4%	
③固定長期適合率	87.3%	67.4%	71.7%	65.7%	52.7%	
④総資産経常利益率	3.0%	-8.9%	-9.2%	5.4%	14.9%	
評 価	黒字決算により懸念していた自己資本はプラスに転じ、安定した経営状況といえるまでもう一歩ということまで改善された。					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

自己資本比率（%）＝自己資本÷総資産×100 【例】 $800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多いほど、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

流動比率（%）＝流動資産÷流動負債×100 【例】 $1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

固定長期適合率（%）＝固定資産÷（固定負債＋自己資本）×100 【例】 $900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけの経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

総資本経常利益率＝経常利益÷総資産×100 【例】 $200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$

※補足資料1～4の各比率については小数点第2位を四捨五入とする。

■貸借対照表（例）

【資産の部】	【負債の部】
流動資産	流動負債
現金及び預金 400	買掛金 400
受取手形 500	短期借入金 300
有価証券 200	流動負債合計 700
流動資産合計 1,100	固定負債
固定資産	社債 300
建物及び構築物 200	退職給付引当金 200
土地 500	固定負債合計 500
投資有価証券 200	負債合計 1,200
固定資産合計 900	【純資産の部】
	資本金 600
	利益剰余金 200
	純資産合計 800
資産合計 2,000	負債純資産合計 2,000

■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

特に苦情なし。

6 利用者アンケートの結果

7月から9月、11月から3月にかけて利用者を対象にアンケートを実施。
概ね不満なく利用していただいている様子が伺えた。

(別紙2)

令和5年度下期「米子駅南駐輪場」モニタリング評価表〔令和6年11月〕

施設名	米子駅南駐輪場	
施設所管課	都市整備部 建設企画課	
指定管理者名	団体名	株式会社 大幸電設
	所在地	島根県松江市西津田九丁目3番18号
指定期間	令和5年7月29日 ～ 令和9年3月31日	
選定方法	公 募 ・ 非公募	
施設の設置目的	米子駅南側からのパーク＆ライドによる駅利用者の駐車・駐輪スペースを確保し、米子駅前地下駐車場・駐輪場と相互利用することができる一体的な運用とすることで、米子駅南北自由通路を活かした駅利用者の利便性向上を図り、駅南北の相互の活性化に寄与することを目的とする。	
主な実施事業	米子駅南駐輪場の管理・運営	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
I 履行の確認 (60点)			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1)管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	立入調査、資料等確認 管理マニュアル、危機管理マニュアル等及び緊急連絡網が整備されている。
(2)職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	聞き取り調査、資料等確認 採用時に研修を実施。その後も随時研修を実施。
(3)利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	B	資料等確認 供用開始に伴い、駐輪場の周知として米子駅周辺の店舗等に営業を実施。
2 利用者に関する業務			
(1)利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※1	B	資料等確認 今後、利用者増に向けての販促活動等が必要となる。

(2) 利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	資料等確認 7月～9月、11月～3月に利用者を対象にアンケートを実施。
3 保守点検及び清掃等の業務			
(1) 保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料等確認 機械設備の保守を委託にて実施。
(2) 清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	立入調査、資料等確認 毎日清掃を実施。随時維持管理業務を実施。

(3) 保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料等確認 適切に処理されている。 機械警備は委託にて実施。
(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料等確認 新設のため、修繕業務なし。
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか		
5 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	聞き取り調査、資料等確認 管理マニュアル等に基づき、個人情報の持ち出し禁止や施錠の徹底等、適切に措置されている。
6 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	B	資料等確認、聞き取り調査 施設の現状を的確に認識し、市に提案をしている。

II サービスの質の評価 (25点)

1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	立入調査、資料等確認 事業計画書に記載されたとおり、アンケート実施回数を増やし、7月～9
----------	--	---	---

				月、11月～3月に利用者を対象にアンケートを実施。結果は概ね妥当である。
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	A		立入調査、資料等確認 毎日の清掃及び備品の交換等により施設が良好な状態に保たれている。利用者アンケートからも清掃状況について評価が高い。
3 運營業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	B		立入調査、資料等確認 概ね適切に接客している。
4 自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか			
5 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B		資料等確認 設置目的の達成に資する管理運営内容であった。
Ⅲ サービスの安定性の評価 （15点）				
1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2	B		資料等確認 妥当である。
2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3	B		資料等確認 妥当である。
3 団体等の経営状況（年度ごと）	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4	B		資料等確認 回復傾向にある。

【総評（所管課評価）】 ・事業計画及び収支予算に沿って、適正に管理された。 ・米子駅南駐輪場供用開始後、特に問題もなく他の駐車場・駐輪場との共同管理をされた。 ・駐輪場のニーズが限られる中で難しい面もあるが、施設のPR等の利用促進業務に努めていただきたい。	合計点 (56) 点 / (90) 点 ×100＝ (62) 平均点 (3.1) 点
--	--

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（１点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（０点）

※特記事項欄は、評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

※合計点は小数点第１位を四捨五入、平均点は小数点第２位を四捨五入とする。

【補足資料】

1 利用状況

項 目	本年度〔令和5年7～9月〕 A	前年度〔令和4年4～令和5年3月〕 B	対 比 A－B	対 比 A/B（％）	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
開館日数（日）	247				
施設利用者数（台）	2,232				
施設稼働率					
事業開催数					

2 事業収支

（1）収 入

項 目	本年度〔令和5年7～9月〕 A	前年度〔令和4年4～令和5年3月〕 B	対 比 A－B（円）	対 比 A/B（％）	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
指定管理料	1,120,000				
合 計（円）	1,120,000				

（2）支 出

項 目	本年度〔令和5年7～9月〕 A	前年度〔令和4年4～令和5年3月〕 B	対 比 A－B（円）	対 比 A/B（％）	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
人件費	449,147				
委託費	525,640				
運営費	286,639				
合 計（円）	1,261,426				

3 経営状況分析指標

項 目	本年度〔令和5年7～9月〕 A	前年度〔令和4年4～令和5年3月〕 B	対 比 A－B	対 比 A/B（％）	備考
①事業収支（円）	-141,426				
②利用料金比率					
③人件費比率（％）	35.6				
④外部委託費比率（％）	41.7				
⑤利用者当たり管理コスト（円） ※一時駐輪のみ	565.2				
⑥利用者当たり自治体負担コスト（円） ※一時駐輪のみ	501.8				

①事業収支：（収入－支出）

事業全体が黒字で施設の管理運営ができているかどうか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：（利用料金収入/収入×１００）

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：（人件費/支出×１００）

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：（外部委託費合計/支出×１００）

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：（支出/延べ利用者数）

利用者１人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：（指定管理料/延べ利用者数）

利用者１人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

4 団体等の経営状況（年度ごと下期に実施し、上期では行いません。）

項 目	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	備 考
①自己資本比率	12.7%	3.2%	-5.9%	-0.4%	13.2%	
②流動比率	119.3%	191.9%	165.6%	161.4%	173.4%	
③固定長期適合率	87.3%	67.4%	71.7%	65.7%	52.7%	
④総資産経常利益率	3.0%	-8.9%	-9.2%	5.4%	14.9%	
評 価	黒字決算により懸念していた自己資本はプラスに転じ、安定した経営状況といえるまでもう一歩というところまで改善された。					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

自己資本比率（%）＝自己資本÷総資産×100 【例】 $800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多いほど、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

流動比率（%）＝流動資産÷流動負債×100 【例】 $1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

固定長期適合率（%）＝固定資産÷（固定負債＋自己資本）×100 【例】 $900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけの経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

総資本経常利益率＝経常利益÷総資産×100 【例】 $200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$

※補足資料1～4の各比率については小数点第2位を四捨五入とする。

■貸借対照表（例）

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	400	買掛金	400
受取手形	500	短期借入金	300
有価証券	200	流動負債合計	700
流動資産合計	1,100	固定負債	
固定資産		社債	300
建物及び構築物	200	退職給付引当金	200
土地	500	固定負債合計	500
投資有価証券	200	負債合計	1,200
固定資産合計	900	【純資産の部】	
		資本金	600
		利益剰余金	200
		純資産合計	800
資産合計	2,000	負債純資産合計	2,000

■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

特に苦情なし。

6 利用者アンケートの結果

7月から9月、11月から3月にかけて利用者を対象にアンケートを実施。
概ね不満なく利用していただいている様子が伺えた。
また、原付・自動二輪車の定期利用について要望があったが、駐車台数が6台と少ないため、需要状況を把握し今後検討していく。